

## ■サムス vs くすぐり拷問 体験

銀河連邦から依頼を請け、危険なダンジョンを攻略していたサムス。

最奥と思いき地点までもう少しというところで、トラップに捕らえられ、地下の一室に拘束されてしまう。

(こんな手に引っかかるとは……不覚……！)

壁から生えた柱のようなものに跨るよう固定されるのだが、拘束具は相当なパワーで、サムスといえど簡単には壊せない。

代わりに稼働時間が限られているようで、拘束具は起動と同時にタイマーも作動。

この時間だけ耐えられれば解除されて脱出できるようだが……

「拘束、制限時間……狙いは拷問か？ 無駄だ……と言いたいが、せいぜい時間を稼がせてもらおうか」

つつ♥

「はっ？！」

やはりただ捕まえるだけではなく、侵入者を苦しめる仕掛け作動する。

一度は疲労により後れを取ったものの、ゼロスーツ状態も防御力は申し分ない。

どんな責めも耐え切り、むしろ体力を回復するための腰掛けにでもさせてもらおうと思ったサムスだが、道具の一つが触れた途端にサムスらしからぬ甲高い悲鳴を上げてしまう。

(まさかこれは、くすぐり責め……？ しかも、この感覚……私の感度が操作されている？)

この迷宮の、妙な空気のせいか……！)

触れたものは小さな手の形をした器具。

それが軽く脇腹に触れた途端、いつもは感じない異様なくすぐたさに襲われた。

ダンジョンに漂う不思議な空気的作用か、いつの間にかサムの身体は感度が引き上げられており、軽い刺激も相当過敏に感じるように変えられていたのだ。

だが感度を上げられたとはいえ、所詮はくすぐり。

初手こそ不意を突かれて声を出してしまったものの、これ以降は隙を見せまいとするサムだが……

(感度を上げて辱めるつもりか？ 下衆なことを……！ だがもうこれ以上……)

つつ♥ すりすり♥

「んっ！ く、ふ……っ」

(これ以上、くすぐりなどに……)

すりすり♥ そり♥ こちょこちょ♥

「んひっ！ ふ、増え……ひやめっ！ んくっ！ んひひいん♥」

(な、なんだ♥ この気持ち良さはあ？！♥ スーツ越しだというのに……♥

いや……スーツ越し、だからか……っ♥ なぞられる感覚が……増幅されて……♥♥)

くすぐりハンドの指は付かず離れずの巧みな加減で表面を滑り、そのたびに抗いようのないくすぐたさにどうしても口が開いてしまう。

ゼロスーツ越しだというのに、なぜこうも感じてしまうのかと疑問に思うが……むしろ逆。

そう、ラバーに似た身体に密着するタイプのスーツは、くすぐるという小さな刺激に関しては抑えるどころか刺激を増幅させるのだ。

一種の感覚遮断などが生む作用により、気体も液体も通さないスーツが密着することで逆に肌の感覚は過敏となる。

しかも微弱な刺激がスーツによって拡散されて、肌には程よく広がって届く。

流石のサムもこのような刺激への耐性は持ち得ておらず、むしろ天敵とも言える刺激なのだ。

「あっははははあっ！ くっ、やめっ♡ あははははあっ♡」

（ま、まさかこのような責めに耐えられないとはっ♡ 感度を上げられてさえないなければ……くそ♡

あ、相性が悪すぎるっ♡ 集中できんっ♡ パワードスーツがっ♡ 装着できないいっ♡♡）

相性のせいにしたくなるほどにくすぐりの威力は驚異的で、ついにはパワードスーツ使用も考えるが、あまりのくすぐったさと快楽で精神を強く保てず、パワードスーツの装着もできない。

更にくすぐりハンドは増え、腋だけでなく胸にも指を這わせて来る。

「んひいっ！ こ、このっ……！ どこを触って……」

すりすりっ♡ くりくりくりっ♡

「あはははっ♡ 両方っ♡ いつの間にっ♡ くはははははあんっ♡」

いつの間にか左右の胸に伸びていたくすぐりハンドが胸乳をなぞり、更には尖った部位にまで伸びていく。

根元から先端にかけてそわそわとくすぐられ、屈辱的なはずなのに乳首はすっかり反応してしまう。

「はあ……♡ はあ……♡」

（下品な部位に触れるなど……♡ この、下衆め……♡ だが所詮この程度の刺激では）

「あんっ♡♡ ひやふっ♡ 手っ増えすぎひっ♡ 調子に乗っはははあっ♡♡

んふっ♡♡ ふっ♡♡ っっ……あははははあんっ♡♡」

くすぐりハンドは乳首だけでなく胸の下側、更に付け根にあるスプレン乳腺までくすぐり、気持ち良くするだけでなく、昂っている身体を少しずつだが確実に開発していく。

腋のくすぐりも復活し、更に手は増えて背筋、太股、耳筋に足裏と敏感な部分を次々手にかけ、怒涛のくすぐり責めに媚びるような喘ぎまで出してしまう。

しかも責め具はまだまだ増え……手だけでなく、羽のようなものまで取り出してきた。

「ひっ♥♥ なんだ、それはあっ♥♥」

（羽……？ まさか、それを使って……♥）

さわっ♥

「くっ？！」

すりすりそりそりっ♥ ふわあああっ♥

「くひっはっ♥ どう道具をつ♥ 変えた、ところであ♥ そんなものっ♥ きつ効くわけがっ♥♥

あはひっ♥♥ ひいいんっ♥♥」

羽毛に似た素材が耳かきの梵天のように集まり、ふわふわと何とも触り心地良さそうな見た目の棒。

それらも複数出現し、くすぐりハンドの間を縫うように位置すると、優しく撫でたり震えながらさすったりと好き放題にくすぐり回す。

そして更に、跨っている柱からも拷問具が出現する。

（どんどん責めが♥♥ 刺激が♥♥ 増えて——♥♥）

さわさわさわわ♥ すりすりふわふわあっ♥

「んあああっはははははっ♥♥ おっ多すぎ♥♥ 多すぎひひいいんっ♥♥

この程度っ♥♥ こによていどおおおおおお♥♥」

ヴィイイイイインツ♥

「はっひひいい——っ♥♥ そこっ♥♥ そこっこすっではあっ♥♥ んははっあっ♥♥ あはああああんっ♥♥」

股の間から現れて股間を責めるのは最悪の責め具——ハケ水車。

ふわっふわで柔らかなハケがいくつも付いた小さな車輪。

それが高速回転し、恐るべき連打で尻の谷間、会陰、割れ目を責め立て、これにはサムスも堪らず悶絶。

身体を暴れさせようとするが拘束されているためまともに動けず、その場でのたうち回るのみ。